

ボランティアの心

里山に魅せられて

人の手が入らなくなり放置された里山がいかにも多いことか。外から見れば木々が生き茂り、いかにも緑が豊かに見える林も、内に入れば光不足で薄暗く、植物種も少ない貧相な林です。そんな里山を何とかしたい。そのような思いから、兵庫県が実施する「森林ボランティア講座」を受講し、終了証の代わりにヘルメットを頂きました。そして2～3回かぶって里山整備に参加しましたが、私の思いと少し違うことなどから、その後は使うこともなく、家の隅でほったらかしの状態でした。

平成19年の春、生環13期生の有志で行う里山整備「かがやきの森」に誘って頂きました。みんなで意見を出し合いながら進めると聞き、理想的な里山整備と思ったのです。それでも悩みはありました。光を林床まで届かすためには、大きく育った木を間伐しなくてはなりません。「本当に必要なの?」「他に方法はないの?」木を切るしか方法はないと判っているのですが、すんなりと受け入れることはなかなか出来ず、切るたびに胸が痛



みました。

しかし、整備をして1年も過ぎると小さな実生の幼木が顔を出し始めました。今まで落ち葉

の下に埋もれていたものが、光を与えられ、落ち葉を取り除かれたことで、一気に地表に出てきたのです。「わぁ、出てきてくれたの。うれしい。」その幼木がとても愛おしく、里山が再生しつつあることを実感することができました。整備を続けてきて良かった。いろいろ悩みもあったけれども、吹っ切れてしまいました。

今ではヘルメットはキズだらけです。毎回、整備作業を終えると身体はくたくたですが、疲れは残りません。きっと自然から元気をもらっているからでしょう。これからもあの幼木たちを見守りたい。長い間地中にあり、地上に出るのを今か今かと待っている見知らぬ種たちに、早く光を与えたい。私の切なる思いです。(写真は7月23日、里山で作業中の谷口さん) 谷口文子(生環13期)

障害児は〈ほめよう〉

秋の学習支援者の集い

今年度2回目の「学習支援者の集い」が9月7日、50人が参加してカレッジ学習室で開かれました。加藤委員長が支援活動の現状を報告したあと、市教委特別支援課の崎川孝一さんが特別支援ボランティアの基本的な留意点について講演。①知的障害のある子②肢体不自由な子③自閉症の子——と障害児をタイプ別に分け、その特徴、対応の仕方などをくわしく説明し、全体として「ほめてあげる」をモットーに接してほしい、と強調しました。さらに、崎川さんは自分の体験を通して「障害のある子は、教室移動・給食・靴の履き替えなど、〈自分はうまくできない〉と思っているので、〈ほめてあげる〉ことで活動する意欲が育ち、力も伸びる」と熱っぽく語りました。

このあと、市教委の丸山明夫・有原暢彦さんも加わり、アンケートで寄せられた特別支援への要望・課題・悩みについて参加者全員でフリートーク。ある女性は「障害児のタイプ別説明が具体的でわかりやすく勉強になった」と話していました。

西区会が舞鶴旅行

西区会は9月3日、63人が参加しバス2台で舞鶴方面へ日帰り旅行を楽しみました。舞鶴引揚記念館では「こだまする 引揚船の 海鳴りに 天地もさげよ 今君帰る」という引揚の母と呼ばれた田端ハナさんの詩を読んで、ジーンとききました。記念公園からのぞむ舞鶴湾のパノラマ風景、五老スカイタワーから見晴らす海と山の素晴らしさに感嘆しました。帰途、とれとれセンターで新鮮な地元のお土産を買って全員無事に帰ってきました。(西区会・堺寿代)

北区会はグラウンドゴルフ

北区会は9月26日、しあわせの村球技場で26人が参加して親睦グラウンドゴルフ大会を開催しました。優勝は加藤邦彦、2位は松本章、3位は仲多賀夫さんでした。とまり賞は7本。大会後アミーゴで表彰式と昼食会。炎天での試合を振り返りながら懇談しました。

〈わ〉主催のペタンク大会も

グループ〈わ〉主催の第2回親睦ペタンク大会が9月29日、村の球技場で行われ同好会のメンバーら24チーム・48人が参加しました。優勝は大石勇・長島たき子組、2位は伊須原重明・鷹羽昭組、3位は長岡秀和・久保正志組と上野堯・小松隆子組でした。台風17号接近で午後から雨模様となったため、3位決定戦と交流戦の一部が中止となりました。